

不
確
実
な
時
代
の
、
羅
針
盤



MBA

MASTER OF BUSINESS ADMINISTRATION

北九州市立大学
ビジネススクール
2022

北九州市立大学大学院 マネジメント研究科

ごあいさつ

新型コロナウイルス感染症が社会経済のあり方に混迷と不透明さをもたらし、多くの企業や事業組織が難しい舵取りを迫られています。また、国や自治体などの政府部門では緊急事態宣言の発出時期やワクチン接種、大規模イベントのあり方などを巡って厳しい政策選択を迫られる状況が続いています。一方で、私たち市井に暮らす人々は概ね要請されている感染防御対策のルールを守っているといえそうですが、徐々に緊張の糸が緩み、結果として感染拡大に一役買ってしまう人もいます。

このように、自然や社会現象といった外部環境の不確実性は、企業その他の民間団体や政府、そして一人ひとりの市民に大きな影響を与えます。そして、組織や個人は少しでも長く存続できるようにヒト・モノ・カネ・情報などの使いうる諸資源をコントロールし、その行動や意思決定のあり方をより良いものにしようとしています。

企業であれ、非営利組織や個人であれ、これらの活動はいずれもマネジメントという概念として捉えることができます。つまり組織や人がより健康で、より長くその事業活動や生命活動を維持するためには良いマネジメントが必要になるわけです。良いマネジメントを行うためには、マネジメントの対象となる人間やお金、さらには外部環境などの本質を知り、機能を考察し、目標の実現に向けて秩序づけなければなりません。さらには、マネジメントについての知識を増やすだけでなく、その活動が社会正義や公正さを実現するものか否かについての倫理観や、人と人の円滑なコミュニケーションを図り、社会が価値を見出してくれるような製品やサービスを構想するセンスを磨くことが必要です。

当研究科は、そのような能力や資質を持ったマネジャーやリーダーの育成を使命とする専門職大学院です。規模の大小を問わず企業の経営者や管理職、若手スタッフ、そして起業家が、事業構築やマーケティング、財務や人事・組織などに関する実践的な学びを深めています。また当研究科の特色として、行政や教育分野に従事する専門職、さらには医療・介護・福祉分野の経営や現場を担う医師や看護師、療法士や社会福祉士など多種多様な専門職がそれぞれの専門分野でのマネジメント能力の向上のために実践的なディスカッションを重ね、研究活動に取り組んでいます。

不確実性を増す私たちの社会は、確かな科学的知見と変革への意欲を持ち、未来を切り開く謙虚で力強いリーダーを必要としています。当研究科での知的探求と未来創造の旅にチャレンジする意欲に溢れた皆様をお待ちしています。



北九州市立大学大学院
マネジメント研究科長
工藤 一成



経営系専門職大学院
認証評価について

北九州市立大学大学院マネジメント研究科は2020(令和2)年度に3度目の(公財)大学基準協会による経営系専門職大学院認証評価を受け、同協会の経営系専門職大学院基準に適合していると認定されました。

北九州市立大学 ビジネススクール(K²BS)の概要

名 称

大学院マネジメント研究科
マネジメント専攻

課 程

専門職学位課程

学位名称

経営学修士(専門職)
Master of Business Administration【MBA】

設置時期

2007(平成19)年4月

学生定員

60名(1学年30名×2年)

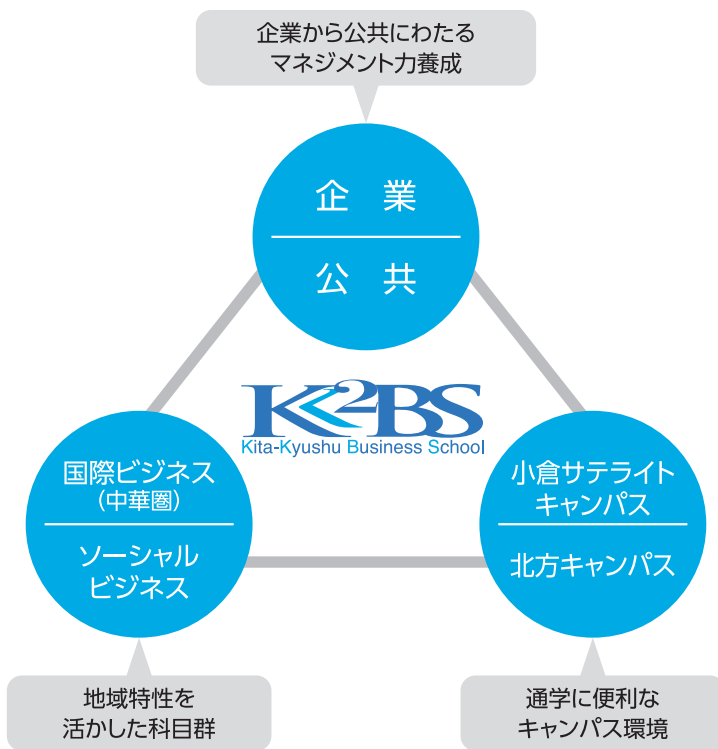
修業年限

2年(最長4年までの長期履修学生制度あり)

修了要件

44単位

北九州市立大学ビジネススクールの特徴



実践知と理論知

アカデミックな「知」と経験ベースの「知」の双方が融合した実践的なプログラムを提供しています。そのため、様々な分野のスペシャリストを特任教授として招聘しています。

ビジネスとパブリック

マネジメント能力は、ビジネス分野はもちろんのこと、パブリックの現場にも求められる能力です。これら双方にとってベースとなる科目に加えて、ビジネス・パブリックそれぞれの応用科目を配置しています。

中華ビジネス

グローバル化が進むビジネス環境の中で、北九州市立大学の中国語教育の蓄積と中華ビジネス研究の蓄積、中華圏の有力ビジネススクールとの連携をベースにした、中華ビジネス科目を配置しています。

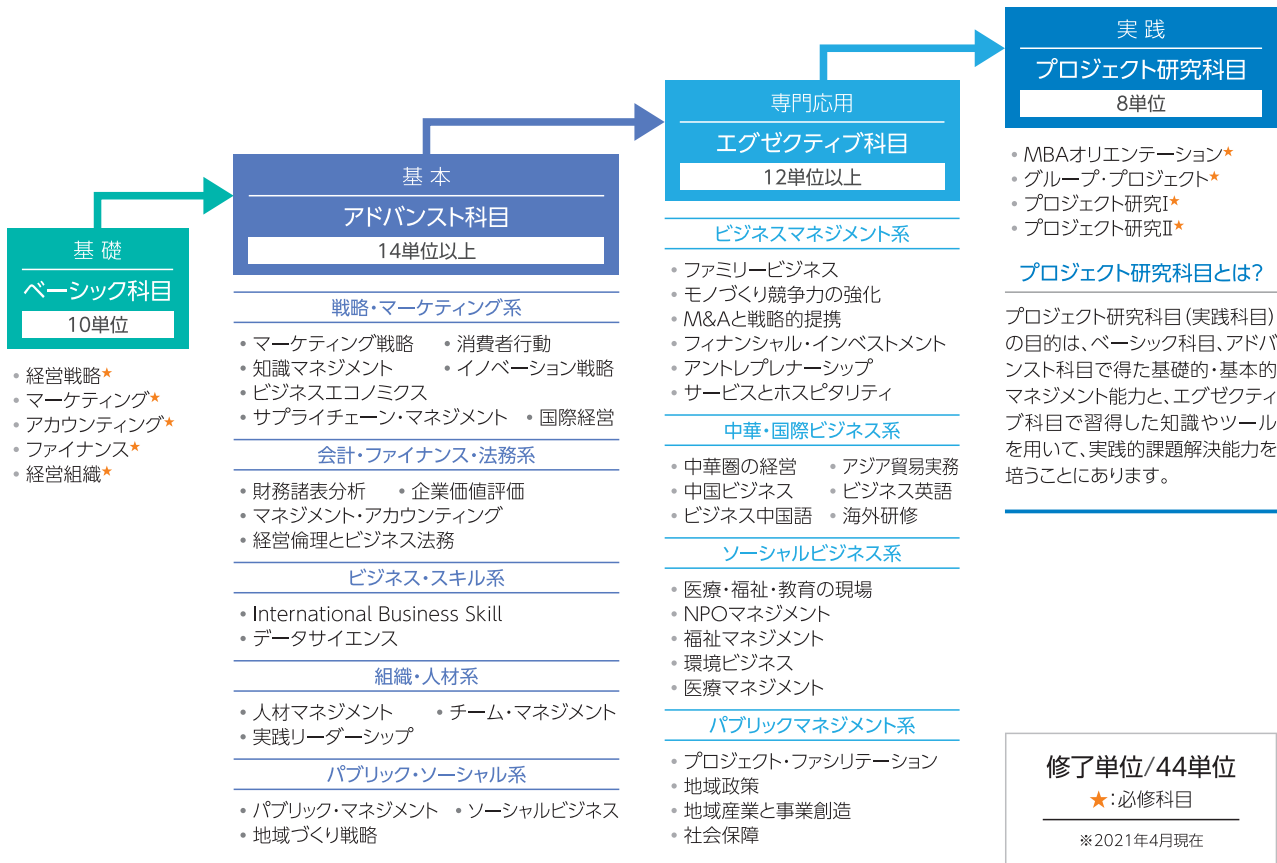
ソーシャルビジネス

“課題”先進都市である北九州市の特性を踏まえて、医療・福祉・環境・安全・安心などの社会的な問題の解決手段として注目されるソーシャル・ビジネス系科目を配置しています。

カリキュラム

積み上げ方式によるステップアッププログラム

北九州市立大学ビジネススクールのカリキュラムは、ベーシック科目、アドバンスト科目、エグゼクティブ科目、プロジェクト研究科目の4つから構成されています。基礎的な知識をベースに、応用的な知識を学ぶという基礎科目から専門・応用科目へ進む積み上げ方式のステップアップ型プログラムを採用しています。



About K²BS 4つのポイント

- 1. K²BSネットワーク累計400名** 2008年の開設以来、ビジネススクールの修了生数は336名。在学生・修了生のネットワークは400名にのびります。プロフィールも、経営者や企業の管理職・公務員・医師など多種多様。修了生で組織される「マネジメント研究会」の活動も活発です。
- 2. 在学生の平均年齢43.1歳** 「次の一手を考えるための新しい視点を学びたい」「逆境に負けない組織づくりを学びたい」など日々重責を担いながら様々なマネジメント課題を抱えるビジネスパーソンが集うK²BS。授業では、常に活気にあふれたディスカッションが日々行われています。
- 3. 専任教員
一人当たりの学生数 4.5人** 多様なバックグラウンドを持つ社会人学生へ研究指導・サポートを行う体制も整っています。専任教員が「修学アドバイザー」となり、入学から修了まで学生一人ひとりの特性に応じた履修計画に対してアドバイスを行うほか、学生が自由に各専門分野の教員から助言を得られるように、オフィスアワー制度も設けています。
- 4. 海外研修やフィールドワークなど、
グローバルとローカルを
実践的に学べる多彩なプログラム** グローバル的視野を持った高度専門職業人を養成すべく、2013年から「海外研修」を集中講義として行い、海外の企業訪問等を通じた国際感覚の涵養やビジネスネットワークづくりを推進しています。また、地域事情に精通した人材を育成するためのフィールドワークや、ケース・メソッドを通じた実践的な課題研究を行っています。

働きながら学ぶ

[社会人の修学環境]

K²BSは働く皆さんの味方です!

通学に便利な
小倉サテライトキャンパスと
北方キャンパス

平日は夜間に授業

平日は夜18:30~90分、
2コマの授業を小倉サテライトキャンパスで!

土曜日は昼間に授業

土曜日は北方キャンパスで終日授業

自習室や図書室

北方キャンパスの図書館では、終日利用可能な大学院生専用のスペースを備えています。また北方キャンパスの資料室や小倉サテライトキャンパスにも自習スペースや図書、パソコンなどを備えています。

修学アドバイザー制度

専任教員が入学手続き後から修了まで、学生一人一人の特性に応じた履修モデルを助言する修学指導の制度を導入しています。学生の課題達成を強力にサポートします!

専門実践教育訓練給付金制度

K²BSは、専門実践教育訓練給付金制度の指定講座です。一定の要件を満たした場合、修了後に入学金・授業料の一部がハローワークより支給されます。(詳しくは18ページ)

長期履修制度

標準修業年限である2年間での修了が困難な場合、最長4年間で計画的に履修し、修了する制度です。授業料は2年間分の授業料の総額を、長期履修が認められた年数で分割して納めます。(詳しくは18ページ)



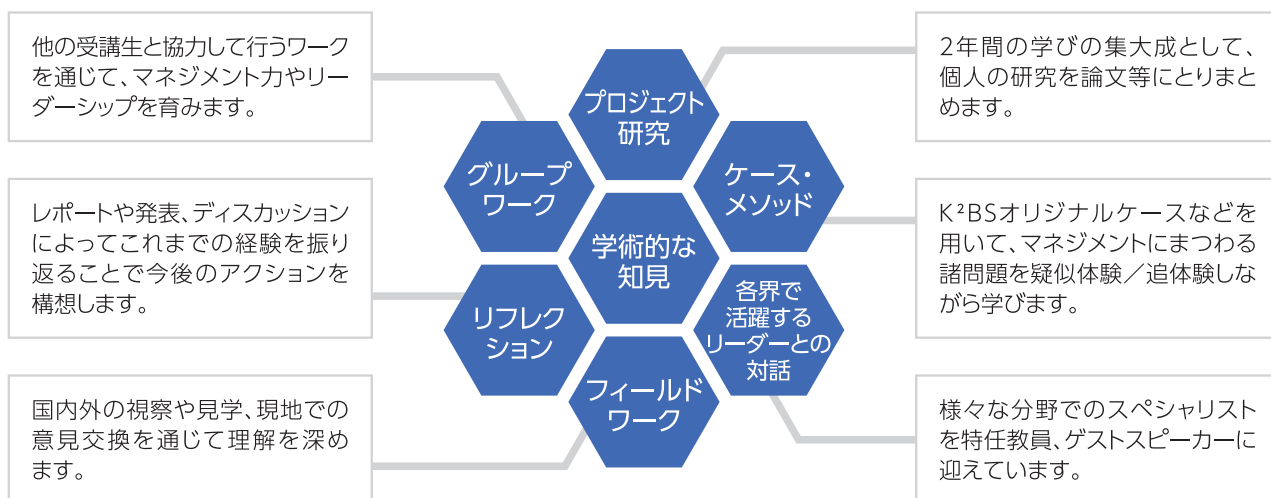
フレキシブルに対応可能なサテライトキャンパス第二教室



北方キャンパスでのディスカッションの様子

インタラクティブな学びの場

企業のマネジメントの諸問題を追体験する「ケース・メソッド」をはじめ、グループワークやフィールドワーク、リーダーとの対話など、インタラクティブな授業により意見を交わしあい問題解決のアイデアを探るアプローチ法を多数用意しています。



夜の小倉中心街でのフィールドワーク（地域づくり戦略）



由布院のキーパースンを訪ねるフィールドワーク（サービスとホスピタリティ）

遠隔対応

新型コロナウイルス下において、

- 1) ビデオ会議システム (zoom) を用いた遠隔授業
- 2) 対面方式の授業
- 3) 対面方式とビデオ会議システム (zoom) を併用したハイブリッド型授業

という3つの方法で授業を行っています。

1) ビデオ会議システムを用いた遠隔授業

遠隔授業においても双方向性を確保するためにビデオ会議システム (zoom) を用いたライブ授業を実施し、自宅や職場から授業に参加できるようになっています。

遠隔授業でも、zoomのブレイクアウトセッション機能を活用したグループワークなど、対面授業と同様なアクティブ・ラーニングを行っています。

2) 対面方式の授業

教室定員を約半数に削減し、入室時の健康チェック、マスク着用、手洗いやアルコール消毒、備品・機材の消毒、換気

の徹底など感染対策を徹底しています。また、アクリルボードなども用意し安心してディスカッションできるように心がけています。

3) 対面方式とビデオ会議システムのハイブリッド型授業

ビデオ会議システム (zoom) によって対面授業をライブ配信するハイブリッド型の授業を行っています。

ケースメソッドやディスカッション、グループワークなどの教育方法を用いて展開される教室での授業に自宅や職場から参加することができます。



サテライトキャンパスからの遠隔授業（経営戦略）

私のビジネススクールライフ



今村 仁美さん
(13期生/2020年度修了)

現職 北九食品株式会社

多様な授業から学び、 視野の広がった2年間

私は食品メーカーで製造管理の業務に携わっているものの、オフィスワークが中心で平日は17:30の定時で退社しサテライト教室に駆けつける毎日でした。職場から高速を使って片道約40分、帰りは下道で約50分かけて通学しましたが、当社の代表がKBSのOBであったため理解を得やすく、バックアップもしていただいたので、難なく通うことができました。

履修に関しては、本業で活かせるものを厳選して受けようと考えていましたが、シラバスをみると多方面に興味湧いてきて、「せっかくビジネススクールにきたのだから」と、少し欲張って履修をしました。もともと興味があった組織のマネジメントに関わる科目を中心に、地域づくりや環境ビジネスなど幅広い授業を受けました。課題が重なると大変でしたが、どの授業も楽しくとても有意義だったので、結果的には多くの科目を履修してよかったと思っています。

ので、結果的には多くの科目を履修してよかったと思っています。

授業スケジュールは様々ですが、私の場合は平日週2~3日と土曜日毎週の通学、8~9月の集中講義で、2年間で60単位取得しました。授業で出される課題は、授業のない日の夜や日曜日に取り組んでいましたが、それでも終わらないときは平日授業から帰ったあとに力尽きるまでやることもありました。土曜日は10:40~19:30まで一日中授業を受ける学期もありましたが、合宿のようで楽しかった記憶しかありません。

プロジェクト研究に関しては、当社の社員を対象としたモチベーションの向上に関する研究をしました。緊急事態宣言下で思うように環境を整えられない中で、同期と励まし合いながら、先生方のお力添えもあり、何とか納得のいく結論を導き出すことができました。

履修例<13期生 今村さん>

月曜日~土曜日 毎:毎週1時限で開講 隔:隔週2時限連続で開講 ★印は必修

曜日	時限	時間	1年次				2年次								
			1学期		2学期		1学期		2学期						
			A週	B週	A週	B週	A週	B週	A週	B週					
月	6・7	18:30 21:40	隔	アントレ プレナーシップ		隔	モノづくり 競争力の強化		隔	環境ビジネス					
火	6・7		隔	知識 マネジメント		隔	イノベーション 戦略								
水	6・7								隔	地域政策		隔	サプライチェーン・ マネジメント		
木	6・7			隔	データ サイエンス	★	隔	ファイナンス	隔	地域づくり戦略	隔	地域産業と 事業創造	隔	ファミリー ビジネス	
金	6・7		★	隔	マーケティング	★	隔	財務諸表分析	隔	経営組織	隔	人材 マネジメント	隔	消費者行動	
土	2	★	★	隔	MBAオリエンテーション	★	隔	グループ・プロジェクト							
	3・4	10:40 12:10			★	隔	経営戦略	隔	サービスと ホスピタリティ	隔	マーケティング 戦略	隔	マネジメント・ アカウンティング		
	4・5	13:00 16:10											隔	プロジェクト・ ファシリテーション	
	5・6	14:40 17:50							隔	ソーシャル ビジネス					
	6	16:20 19:30													
	6	18:00 19:30	★	隔					★	隔	プロジェクト研究I	★	隔	プロジェクト研究II	

集中講義

年次	2年次	
	実践リーダーシップ	チーム・マネジメント

ベシック科目/10単位	アドバンスト科目/26単位	エグゼクティブ科目/16単位	プロジェクト科目/8単位	合計 60単位取得
-------------	---------------	----------------	--------------	-----------



長濱 弥守郎さん
(13期生/2020年度修了)

現職 社会福祉法人豊和会
特別養護老人ホームあだち園 施設長

実践的な知識と 新たな人的ネットワークが財産に!

社会福祉法人の取り巻く環境が大きく変化する中で、経営者としての必要な知識を体系的かつ理論的に習得する必要があると思い、入学を決意しました。科目履修にあたっては、仕事に関連するソーシャル・パブリック系と組織・人材系を中心に履修することで、専門的な知識を深めることができ、直面する課題に対しての解決能力を高めることができました。そして、馴染みのある分野の講義であっても、多種多様なバックグラウンドを持つ教員の先生方や学生同士のディスカッションにて様々な知見が得られ、既存の制度や業界の常識に捉われない新たな視点を持つことができました。

プロジェクト研究では、人材マネジメントやリーダーシップなどの組織要因が従業員エンゲージメントとワークモチベーションに与える影響を明らかにし、

働きがいの高まる施策を提言しました。研究テーマについては、入学前から考えていた為、1年次のグループプロジェクトから関連するテーマを選択し、2年次のプロジェクト研究まで一貫して取り組みました。研究テーマを安易に変えず、早めに取り掛かったことで、自分が納得できる修士論文を執筆することができました。

K²BSは、魅力的な科目が多く、充実した2年間でした。コロナ禍で2年次は主にオンライン授業でしたが、それも良い経験となりました。入学して、マネジメントに関する実践的な知識を修得できたことは言うまでもありませんが、一番の収穫は、新たな人的ネットワークが構築できたことです。K²BSで得られた学びと人脈が、今後の私の人生に大きな役割を果たすと確信しています。

履修例<13期生 長濱さん>

月曜日～土曜日 毎：毎週1時限で開講 隔：隔週2時限連続で開講 ★印は必修

曜日	時限	時間	1年次				2年次						
			1学期		2学期		1学期		2学期				
			A週	B週	A週	B週	A週	B週	A週	B週			
月	6・7	18:30 21:40				隔	社会保障			隔	医療・福祉・教育の現場		
火	6・7		隔	知識 マネジメント		隔	医療 マネジメント						
水	6・7			毎	ビジネス エコノミクス			隔	地域政策			隔	M&Aと 戦略的提携
木	6・7				★隔	ファイナンス	隔	地域づくり戦略	隔	地域産業と 事業創造	隔	ファミリー ビジネス	
金	6・7		★隔	マーケティング	★隔	アカウンティング		★隔	経営組織	隔	人材 マネジメント		
土	1・2	9:00 12:10								隔	福祉 マネジメント		
	2	10:40 12:10	★毎	MBAオリエンテーション		★毎	グループ・プロジェクト						
	3・4	13:00 16:10	隔	パブリック マネジメント	★隔	経営戦略	隔	サービスと ホスピタリティ	隔	マーケティング 戦略			
	5・6	16:20 19:30						隔	ソーシャル ビジネス				
	6	18:00 19:30	★毎						★毎	プロジェクト研究I		★毎	プロジェクト研究II

集中講義

年次	2年次	
	実践リーダーシップ	チーム・マネジメント

■ ベーシック科目/10単位	■ アドバンスト科目/18単位
■ エグゼクティブ科目/18単位	■ プロジェクト科目/8単位
合計 54単位取得	

在校生メッセージ



渡邊 夕夏里さん (14期生 / 2020年度入学)

現職 日鉄環境エネルギーソリューション株式会社
営業・調達本部 第一営業部

コミュニティの結節点としてのビジネススクール

学部時代にお世話になった先生を含めてMBAホルダーに多く関心を持っていました。入社後、直属の先輩がK²BSの修了生であり、北九州市立大学にもビジネススクールがあることを紹介してもらいました。地元の北九州が好きで、北九州をフィールドワークしたりしながら学べる事も魅力に感じてK²BSを選びました。

入学直後は、新型コロナウイルスの影響で授業開始が遅れたり、遠隔講義になったりと大変でした。同期との関係性もできていないままの授業は不安なこともありました。現在では、打ち解け合い、普段の会社員生活では到底出会えない、多様なバックグラウンドを有する学生たちの白熱したディスカッションを通じてお互いに刺激し合っています。最年少である私も積極的に発言していますし、発言しやすい雰囲気を作ってくれたり、それに聞き耳を立ててくれる人生の先輩方ばかりです。これからの人生で、ずっと付き合っていけるような仲間ができたと思っています。

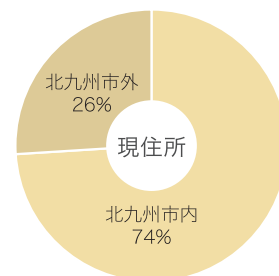
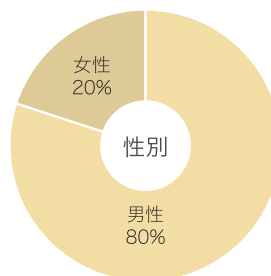
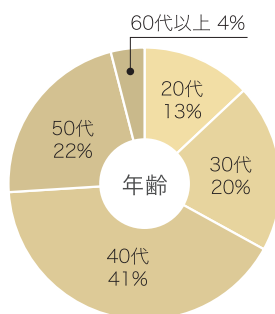
この1年間で経営学の基礎的なことから学んだことで、情報をキャッチしたり、その意味を解釈する能力、多角的によく考えるスキルが上がったように感じます。例えば、会計やファイナンスに関する授業を受けたことで、これまでは聞き流してしまっていたような新聞やニュースのトピックの意味や背景などが理解できるようになってきました。まだまだ会社や地域というフィールドで活かしていくレベルには達していませんが、頑張っていきたいと思います。

K²BSはそれぞれの持つコミュニティが結びつき、化学反応が起き、さらに拡張していくような場なのではないかと思っています。そういう場の一員として、もっと貢献できるようにになりたいと思います。

在校生データ

[2021年度]

n=54人



※大学卒業以外の方は出願前に入学資格審査を行います。



高木 厚次さん (14期生 / 2020年度入学)

現職 九州建設コンサルタント株式会社

理論は実践的だった

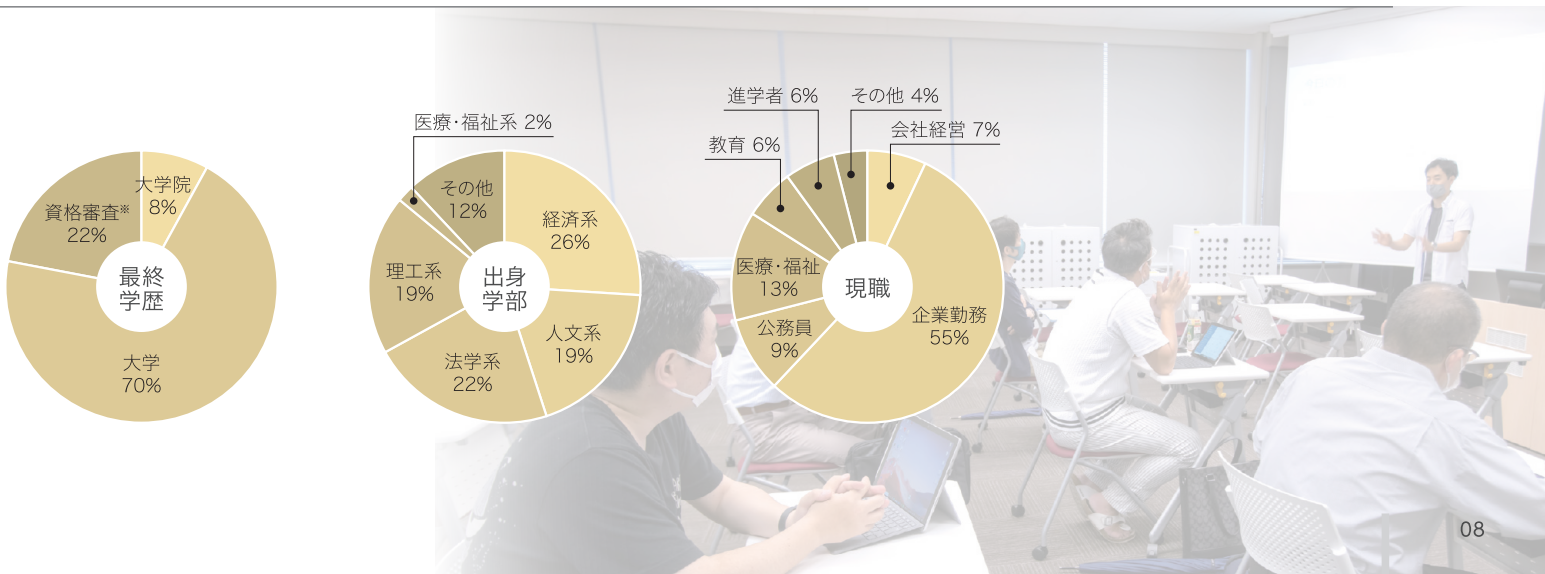
自社に経営戦略室が創設され、その室長となり、また子会社の代表取締役を兼任することになりました。営業出身ではあるものの経営に関する知識不足を感じ、学び直そうと考えていました。当初は大分在住・勤務ということで、地元の大学を念頭に検討していましたが、大学時代の同級生にK²BS修了生がおり、勧められたことから選びました。

大分からの通学ということで、会社には迷惑をかける部分もありますが、社長を含めて理解と配慮をいただいています。私としても土曜日を中心とした履修、週3日以内の通学という工夫をしています。また、時間的にも厳しいので、朝早起きしたり、通学時間を活用したりしていますが、何より「やらないこと」を決めるという習慣がつかえました。

入学当初は、学問の実践性という点について懐疑的でした。しかし、学びを通じ視点が増えたことで、自社の現在の様々なことが意外と見えてきました。現在では、学んだ理論やフレームワークを通じて発見した自社の課題などについて社長と議論しています。その結果、経営戦略室自体も評価されるようになったと感じています。

また、学問だけでなく実務家教員の経験やグループワークといった手法のどれもが、ビジネス現場に活かせるものばかりであり非常に実践的な学びです。そして、刺激し合う仲間ができたことも入学してよかった点です。

現在、プロジェクト研究では、子会社での3DやCGといった新規技術を用いたビジネス展開と地域振興や地域貢献、観光などを結びつけるようなビジネスモデルを構想したいと考えています。また、新型コロナで働き方が大きく変わる時、自分の働き方の革新にもチャレンジしたいです。





権頭 喜美恵さん

(11期生／2019年度修了)

Q1

K²BSに入ったきっかけや動機

20代で医療や福祉分野で起業をしました。目の前にいる人の課題を解決するお手伝いをしたいという思いと、それに向き合う中での経験や直観で30年近く経営者として歩んできました。

運営する事業の多くは、公費や保険料で運営されていますが、昨今、少子高齢化や人口減少社会といった大きな変化の時を迎えており、経営の難しさを実感していました。今後、持続可能なソーシャルビジネスとしての地位を確立するため、今までを振り返りつつ経営学という視点で学びたいと考え入学しました。

Q2

大学院で培ったネットワークへの期待や実績

北九州市内外で活動をしていると、さまざまな場面で先輩に出会うことがあります。そのような時に、同窓ということから仕事もスムーズに進むことも多々あります。

また、以前は北九州出身ではないので、地域の学校での同窓生とのつながり、地元JCなどの組織での経験など、地縁が乏しいことに不安を抱いていました。しかし、今ではK²BSのお陰で北九州という郷土愛いっぱいの活動をしています。

Q3

修了までに苦労したこと

一番苦労したことはタイムマネジメントです。本業の仕事との優先順位はつけやすいのですが、所属している団体やお世話になっている組織、市政の運営委員などの任務が重なると、どうしても時間的な調整がつけられないことが多々ありました。

Q4

今の経営にMBAの日々が活かされていること

医療福祉の経営は、今、財源確保や人材難といった多くの課題を抱えています。そのため、効率性とより良いサービスの双方を同時に求められています。

今まで「思い」「気持ち」ばかりで走ってきましたが、MBAでの学びの中で、「思い」だけでは「人に伝える」「人を動かす」ということは出来ないということを改めて認識しました。

自分自身が、その思いを分析し理解していないと伝えることは出来ません。相手に伝えることが出来るようになると、人に任せることが出来るようになります。今、仕事の多くを若い世代にシフトしていけるのは、MBAのおかげだと思っています。



神谷 直希さん

(12期生／2020年度修了)

Q1

K²BSに入ったきっかけや動機

大学を卒業して30年。新しく生み出された理論やテクノロジーに触れたくて、K²BSの門を叩きました。K²BSで得た知見を経営の革新や生産性の向上に活かすことが目的です。

前職の友人の中にMBAホルダーがいましたので、心の何処かに自分もMBAホルダーになりたいという気持ちがあったのかもしれない。

Q2

K²BSで印象に残っている講義や教員

データ・サイエンスの齋藤准教授です。齋藤先生は私の出身大学の後輩なので、授業はやりにくかったかもしれませんが、とても有意義な授業でした。

私には統計学の経験しかありませんでしたので、「R」を使った実習はとても新鮮で、データ・サイエンスの大きな可能性を実感できました。この授業の経験から、息巻をデータ・サイエンス学部のある大学に進学させたほどです。

Q3

修了までに培ったネットワークへの期待

私は北九州の出身ですが、11歳から35年間東京在住でしたので、北九州に戻って新たにネットワークをつくることに苦労しました。

K²BSで得られたネットワークは、これまでのものとは全く異なるものでした。私は長期履修でしたので、同期という横のネットワークは2期分になりますし、先輩後輩の縦のネットワークも業種や役職はバラエティに富んでいてとても貴重なものになると思います。

Q4

修了までに苦労したこと

やはり修士論文は提出期限ギリギリまで苦労しました。指導教官の高橋准教授からは随分いじめられました(笑)。自分では「出来た」と思っても、異なる視点や論理的な矛盾を指摘される度に新たな発見がありました。こんなにも丁寧に指導していただけるのかと感動したほどです。

Q5

これから志願される方へのメッセージ

2年間は極めてタイトなタイムマネジメントを強いられると思いますが、それだけの価値があるコースです。妥協せず、自分にどれだけ厳しくなれるかで、その後の成長度合いが大きく変わってくると思います。大事なことは受動的に授業を受けるのではなく、いかに自分から能動的に学ぶかだと思います。

修了生ネットワーク

K²BSで学ぶことで、K²BSの300名を超える修了生との強固なネットワークも活用できます。既に、同級生同士や先輩・後輩によるコラボレーションも誕生しています。また、北九州市立大学自体との関係性も築くことができます。

マネジメント研究会(同窓会)

修了生ネットワークの中核となるのは、マネジメント研究会です。マネジメント研究会は、K²BSの修了生や教員を会員とした組織です。単なる同窓会組織ではなく、修了後も共に学ぶことを目的とした組織です。よって、新入生歓迎会などに加えて、自主的な勉強会やセミナーなど様々な交流の場を主催・共催しています。



修了生によるセミナー：吉武さん(13期生)×鶴田さん(8期生)



本学学部生に向けて講義をする修了生

マネジメント研究会代表メッセージ



田中 裕弓さん

(9期生／2017年度修了)

マネジメント研究会は、マネジメント研究科を修了した者が集う同窓会組織です。単なる同窓会ではなく、大学と連携し、卒業後も集まり継続して学びあう場です。昨今、急速な技術革新や市場変化に対応するため、生涯にわたって教育と就労のサイクルを繰り返すリカレント教育の必要性が叫ばれるようになりました。当会は、MBA修了後も大学と連携し、皆さんの学び直しの機会を定期的に提供しています。

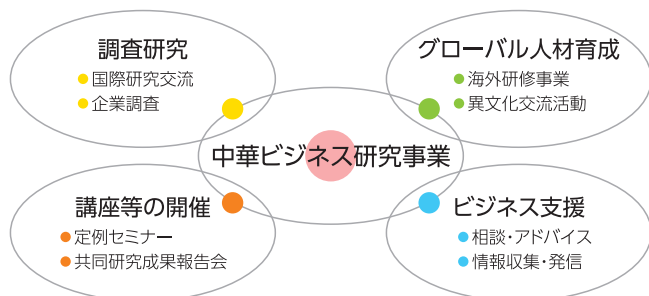
MBAの醍醐味は、学ぶだけでなく、教授や地元の各分野で熱意ある人と強い人脈が構築できることです。同期との繋がりがヨコの繋がりであれば、当会は、過去の修了生とのタテの繋がりを創る場としての役割を担っています。

マネジメント研究科は、これまでに336名の修了生を輩出してきました。地元の各界で活躍されている先輩との出会いが、皆さまに様々な気づきを与えていることは言うまでもありません。

幅広い修了生が集う当会で、皆さまと出会い、お互いの貴重な人脈として付き合えることができる日をマネジメント研究会一同、心より楽しみにしております。

国際交流

中華圏地域を中心とした東アジア地域のビジネススクールや研究機関との教育研究交流を進め、グローバルビジネス・リーダーの育成に力を入れています。



■ 主要交流先

- ①シュタインバイス大学(ドイツ・シュツットガルト市)との共同研修
- ②中国大連理工大学管理学院との学術交流MOU
- ③中国人民大学中国経済改革発展研究院(北京)との学術交流協定
- ④遼寧大学商学院(瀋陽)との学術交流協定
- ⑤遼寧大学新華国際商学院(瀋陽)との学術交流協定
- ⑥東北大学工商管理学院(瀋陽)との学術交流協定
- ⑦香港大学華人経営研究センターとの学術交流MOU
- ⑧マカオ大学工商管理学院との学術交流MOU
- ⑨マカオ大学アジア太平洋経済経営研究所との学術交流MOU
- ⑩中評シンクタンク・ファンデーション(香港)との学術交流MOU
- ⑪香港中文大学国際ビジネス研究センターとの学術交流MOU
- ⑫中国人民大学中国民営企業研究センター(北京)との学術交流協定
- ⑬山東大学管理学院(済南)との学術交流MOU
- ⑭南洋理工大学中華言語文化研究センター(シンガポール)との学術交流MOU
- ⑮中山大学管理学院(広州)との学術交流MOU
- ⑯中山大学同族企業センター(広州)との学術交流MOU
- ⑰国立中山大学管理学院(高雄)との学術交流MOU
- ⑱マヒドン大学中国・アジアグローバル化研究センター(バンコク)との学術交流MOU

■ 講座等の開催

新春特別セミナー2021(第五回「東亜経済論壇」)
(Teamsウェビナー、2021年3月8日@)

- テーマ
ポストコロナにおける東アジア域内経済連携と企業の持続的発展
- 代表挨拶
二宮 正人 副学長
- 発表者

中国人民大学中国民営企業研究センター長	黄 泰岩
シンガポール南洋理工大学公共管理大学院院長	LIU HONG
バンコクラジャマンガラ工科大学国際学院副院長	YUAN DE
北京中民健投資管理有限公司CEO	高 慶海
台湾中華経済研究院国際経済研究所副研究員	戴 志言
株式会社エベック貿易代表	増田 正美
中山大学(広州)管理学院教授	朱 沆
香港中国評論通信社副社長	王 平
前香港貿易発展局日本首席代表	古田 茂美
- モデレーター

日本銀行国際局長	福本 智之
クボタ(株)エンジン部門新興国グループ長	谷村 良太
中華ビジネス研究センター長	王 効平
- 全体司会・運営
中華ビジネス研究センター特任研究員 彭 立君

中華ビジネス研究センター

北九州市立大学におけるこれまでの中国語教育の伝統および中華ビジネス研究の蓄積を活かした調査研究、さらには地域企業や行政機関等におけるグローバル人材の育成などを推進することにより地域社会の課題改善に寄与することを目的に、2014年8月に「中華ビジネス研究センター」を設置しました。

中華ビジネス研究センターの活動報告については、
ホームページ
<http://ccbs.kitakyu-u.ac.jp/>
をご参照ください。



■ 海外研修

海外協定先のビジネススクールの支援を得て、海外企業などの現場体験が可能な実践的教育プログラム(選択科目)として、例年夏季集中講義期間中に「海外研修」を開講しています。過去計8期実施

- ①開講時期:9月初旬
- ②訪問先:中国大陸、香港・マカオ、台湾からなる中華地域、ASEAN地域
- ③参加人数:約20名
- ④活動内容:交流先ビジネススクールから提供される特別講義の受講、現地企業・外資系企業の視察訪問、現地MBA・EMBA院生(経営管理職)とのパネルディスカッションなど



2016年海外研修 瀚藍環境股份有限公司(中国)金鐸CEOらとの交流



鴻海グループ企業(台湾)取締役黃朝懋氏による特別講義:
「シャープ買収と日台企業提携の今後」

海外ビジネススクールの来日研修交流支援事業

本学と交流協定関係にある海外ビジネススクールの来日研修事業をサポート。2018年度、国立中山大学(台湾)管理学院EMBAコース、2019年度キングモンクット工科大学(タイ王国)ビジネススクールの訪日研修団を受け入れました。本研究科専任教員、特任教員による特別講義提供、本市における企業視察、本研究科院生・修士生達との親睦交流イベントを企画・実施しました。

教員紹介 [2021年4月1日現在 50音順]



教授
王 効平
Wang Xiao-ping
国際経営
中華圏の経営
海外研修
プロジェクト研究科目

専門分野 国際経営、比較経営、アジア経営論
主な経歴・業績 1990年九州大学大学院経済学研究科修士後期課程修了、経済学博士号取得。財団法人国際東アジア研究センター専任研究員、北九州市立大学経済学部准教授を経て、2000年教授。2007年よりマネジメント研究科教授、2011年4月-2017年3月同研究科長。2014年8月中華ビジネス研究センター長、現在に至る。大学院社会システム研究科修士後期課程兼任教授。1995年9月-1996年8月米国カリフォルニア大学パークレー校訪問研究員。主要研究業績：単著『華人系資本の企業経営』（日本経済評論社）、共著『日中韓企業の経営比較』（税務経理協会）、編者『日中長寿企業の比較研究』（中華ビジネス研究センター）など。特に東アジア域内における比較経営と多国籍企業の経営現地化に関する調査研究に取り組んでいる。



教授／実務家教員
城戸 宏史
Hiroshi Kido
地域づくり戦略
地域産業と事業創造
実践リーダーシップ
プロジェクト研究科目

専門分野 地域事業創造、地域産業分析、地域経済、公共経営
主な経歴・業績 九州大学文学部を卒業後、九州経済調査協会にて研究員として、16年間地域振興に係る調査研究やプロジェクトに従事。半導体産業や自動車産業、環境産業などの産業振興策に係る調査研究や市町村のマスタープランづくりなどを経験。九州経済調査協会調査研究部次長等を経て、2005年に北九州市立大学経済学部助教授に就任。



教授／実務家教員
工藤 一成
Kazunari Kudo
パブリックマネジメント
社会保障
プロジェクト研究科目

専門分野 公共経営、社会保障、地域医療政策
主な経歴・業績 1981年早稲田大学商学部卒業。同年北九州市役所入職。行政改革、産学連携による研究プロジェクト等を担当。総務局経営企画室主査、産業学術振興局主幹、2009年北九州市立美術館副館長、2014年北九州市保健福祉局長。2017年度から現職。



准教授
高橋 秀直
Hidenao Takahashi
経営戦略
ファミリービジネス
プロジェクト研究科目

専門分野 経営戦略論、技術経営論、産業組織論
主な経歴・業績 2009年公益財団法人医療科学研究所研究員。2011年一橋大学大学院研究科修士後期課程単位取得退学。2011年北九州市立大学大学院マネジメント研究科専任講師。2012年4月より准教授。



教授／実務家教員
武田 寛
Hiroshi Takeda
ファイナンス
ファミリー・インベストメント
プロジェクト研究科目

専門分野 ファイナンス、国際経済、経済経営理論
主な経歴・業績 北九州市生まれ。東京大学工学部卒業後、日本長期信用銀行（長銀、現：新生銀行）に入行。ハーバード大学大学院ケネディスクールMPA（公共政策学修士）、ブラウン大学経済学修士取得後、ボストン大学大学院経済学博士課程を経て、北九州市立大学に着任。主要業績：“Management, accounting and philosophy: the development of management accounting at Kyocera, 1959-2013”, *Accounting, Auditing & Accountability Journal*, 27 (2), 2014年等。



教授
鳥取部 真己
Maki Tottoribe
人材マネジメント
経営組織
プロジェクト研究科目

専門分野 人材マネジメント論、組織行動論、人材育成
主な経歴・業績 1991年慶應義塾大学卒業、三菱電機株式会社にて総務・人事業務に従事した後、1999年慶應義塾大学経営管理研究科修士課程へ進学しMBAを取得。2002年一橋大学大学院商学研究科修士後期課程へ進学、博士（商学）取得。名古屋商科大学や九州産業大学での勤務を経て、2012年北九州市立大学へ着任。



教授／実務家教員
任 章
Akira Nin
アカウンティング
財務諸表分析
プロジェクト研究科目

専門分野 財務会計、監査基準、内部統制等
主な経歴・業績 1981年早稲田大学大学院商学研究科修士課程修了後、ソシエテ・ジェネラル銀行、J.P.モルガン銀行、シティバンク法人金融部を経て英国系商社元財務部長。収益性分析や企業内部統制に関わる実務経験が豊富。その後は再び早稲田大学大学院博士課程、シカゴ大学経営大学院に学び、明治大学・同大学院にて教鞭をとり2004年に北九州市立大学に着任。米国公認会計士（1992年イリノイ）。元公認会計士試験委員（監査論）。単著『監査と哲学』（同文館）、共著『IFRS会計用語辞典』（中央経済社）他 執筆論文多数。



教授
松田 憲
Ken Matsuda
マーケティング
消費者行動
プロジェクト研究科目

専門分野 マーケティング、消費行動学、認知心理学、認知科学
主な経歴・業績 2005年京都大学大学院教育学研究科修士後期課程修了。博士（教育学）。2005年より京都大学大学院教育学研究科研究員（学術研究奨励）。2007年より山口大学大学院理工学研究科講師。同准教授、同国際総合科学部准教授を経て、2016年4月より北九州市立大学大学院マネジメント研究科教授。



教授
松永 裕己
Hiromi Matsunaga
環境ビジネス
ソーシャルビジネス
プロジェクト研究科目

専門分野 環境ビジネス、ソーシャルビジネス、経済地理学
主な経歴・業績 1998年九州大学大学院経済学研究科修士後期課程単位取得退学。98年北九州市立大学産業社会研究所（現：地域戦略研究所）講師、准教授を経て、現職。行政の各種委員やNPO法人、一般社団法人の理事なども務める。2015年にはマネジメント研究科修士と一般社団法人「シオファンド北九州」を立ち上げ、ソーシャルビジネスの活動支援も行っている。



特任教授
岡林 千夫
Kazuo Okabayashi
イノベーション戦略
プロジェクト研究科目

現職 株式会社安川電機 安川電機みらい館 館長
専門分野 産業用ロボットの技術全般、マーケティング、新規事業開拓
主な経歴・業績 1957年高知県生まれ。1981年山口大学工学部電気工学科卒業後、株式会社安川電機に入社し、産業用ロボットの制御ソフトウェア開発に従事。1980年代から2000年代にかけての延べ16年間のドイツ（3年間）、スウェーデン（13年間）駐在を経験しながら、産業用ロボットの開発、マーケティング、経営に携わる。2015年、安川電機創立100周年を記念してオープンしたロボット村の安川電機みらい館館長に就任。併せて副都心黒崎開発推進会議副会長として地域づくりにも取り組んでいる。



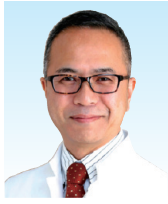
特任教授
舞田 靖子
Yasuko Maita
経営倫理とビジネス法務
プロジェクト研究科目

現職 弁護士法人西村あさひ法律事務所 社員 弁護士
専門分野 一般企業法務、M&A、組織再編、倒産/事業再生、争訟
主な経歴・業績 2002年弁護士登録。西村あさひ法律事務所（東京）入所。2010年プライスウォーターハウスクーパース株式会社（出向）、2012年西村あさひ法律事務所へ復帰後、2013年7月より西村あさひ法律事務所福岡事務所開設に伴い福岡に常駐。企業のリーガルニーズに対応し、M&A、組織再編、事業再生のほか、争訟、労務、知的財産、ファイナンス、海外取引等、多種多様な企業法務に携わる。



特任教授
幕 亮二
Ryoji Maku
地域政策
サプライチェーン・マネジメント
プロジェクト研究科目

現職 株式会社MK総合研究所 代表取締役所長
専門分野 地域政策、交通・物流政策、PFI/PPP
主な経歴・業績 1991年早稲田大学大学院経済学研究科修了。同年㈱三菱総合研究所入社。国や自治体の政策や事業計画策定、事前・事後評価業務に従事。集客・交流コンサルティングチームリーダー、空港民営化事業チームリーダーを経て、郷里の九州にUターンし2018年独立起業。九州各地をフィールドに、幅広い官民連携事業の推進を支援している。



特任教授
石井 義輝

Yoshiteru Ishii
医療マネジメント

現職
医療法人真鶴会 小倉第一病院
形成外科部長

専門分野 病院経営、医療マネジメント、形成外科

主な経歴・業績 1990年大分医科大学(現大分大学医学部)卒業。同大学皮膚科形成外科診療班に所属し、形成外科医としての修練を行う。1997年より健和会大手町病院に赴任。2000年に診療科部長、2007年に副院長となる。在職中は褥瘡対策チーム、栄養サポートチーム等の多職種医療チームの構築・運営にあたるとともに、病院情報システムの導入・更新や地域医療連携推進の責任者など、病院経営や地域医療マネジメントに関わる業務にも携わる。また、医療系学会の評議員、学術集会運営事務局業務も歴任する。2015年9月より現職。
日本形成外科学会専門医、日本医師会認定産業医、医療経営士
2015年にK²BS9期生として入学、2017年修了。



特任教授
桑園 英俊

Hidetoshi Kuwano
福祉マネジメント

現職
社会福祉法人 桑の実会 理事長
NPO法人北九州小規模連 理事長

専門分野 障害福祉事業マネジメント、発達障害者支援

主な経歴・業績 1985年長崎大学教育学部卒業後、北九州市立特別支援学校に17年間勤務。勤務の傍ら1997年に障害者共同作業所を開設。2002年に社会福祉法人認可を得て退職し経営にあたる。主に発達障害特性に応じたマネジメントを行う。4年にNPO法人北九州小規模連(会員市内33事業所)を立ち上げ、事業所ネットワークを構築。現在理事長を兼務。



特任教授
桑野 和泉

Izumi Kuwano
サービストホスピタリティ

現職
株式会社玉の湯 代表取締役社長

専門分野 観光 地域づくり

主な経歴・業績 1964年大分県湯布院町(現由布市)生まれ。家業の宿「由布院玉の湯」の専務取締役を経て、2003年10月より代表取締役社長。町づくりなどの市民グループの代表、世話人も務める。初代ツーリズムおおいた会会長を務めた。現在、一般社団法人由布市まちづくり観光局代表理事。また九州旅客鉄道株式会社取締役(非常勤)を務める。



特任教授
古賀 桃子

Momoko Koga
NPOマネジメント

現職
特定非営利活動法人
ふくおかNPOセンター 代表

専門分野 非営利組織経営、課題解決型事業構築、協働・共創

主な経歴・業績 1975年福岡市生。学生時分まちづくりNPOを経て、2002年に現組織を設立。[草の根から、社会を描く。]を合言葉に、企業・行政・公民館・社会福祉協議会・児童館等の併走支援に注力。近年は、防災や災害時の後方支援にも取り組んでいる。また、「泡盛新聞」九州局長・「泡盛検定協会」会長として、沖縄県の産業振興支援にも注力中。



特任教授
迫 和男

Kazuo Sako
中国ビジネス

現職
TOTO株式会社 顧問

専門分野 国際ビジネス

主な経歴・業績 1983年慶応大学商学部卒業、同年TOTO(株)入社。入社以来、TOTOの海外事業に携わる。2004年TOTO USA Inc.社長、2010年TOTO(株)環境建材事業部長、2015年上席執行役員米州事業部長、2016年取締役常務執行役員 米州、欧州住設事業担当、2019年顧問。USA滞りは14年、マーケティング部長としてTOTO USAの初期の市場開拓、社長として黒字化、100%子会社化(少数株主の整理)を行う。2008年シカゴ大学ビジネススクールにおいて、エグゼクティブプログラムであるChicago GSB Executive Instituteを終了。



特任教授
瀬戸 大樹

Hiroki Seto
M&Aと戦略的提携

現職
株式会社日本M&Aセンター
福岡支店 課長

専門分野 中小企業を対象としたM&A、事業承継

主な経歴・業績 2001年早稲田大学教育学部卒、株式会社リクルートに入社。HRカンパニーにて企業の採用課題解決の提案、大学での講演活動や就職指導を通して学生の就職力向上をサポート。2011年株式会社日本M&Aセンター入社。入社以来、主に譲渡企業担当として50件を超える企業のM&Aを支援。2016年の福岡支店開設に伴い福岡に常駐し九州・沖縄エリアを担当。



特任教授
林田 暢明

Nobuaki Hayashida
プロジェクト・ファシリテーション

現職
総務省地域力創造アドバイザー、
合同会社TAO 代表取締役

専門分野 ファシリテーションを活用したプロジェクト推進

主な経歴・業績 日本銀行、民間シンクタンクを経て2005年、地域活性化を目的としたカフェTAOを福岡市に設立。これまでに総務省地域力創造アドバイザー、福島県南相馬市教育復興 基本計画策定のための有識者会議副会長などを歴任。カドカワが設立したネットの通信制高校[N高等学校]の設立にも関わるなど教育分野、地域活性化分野において全国各地でコンサルティングを行っている。北九州市出身、43歳。



特任教授
増田 正美

Masami Masuda
アジア貿易実務

現職
株式会社エーベック貿易
代表取締役社長、
中国合弁企業 副理事長

専門分野 日中経済貿易、貿易ソリューション、
中国語翻訳・通訳(各高度専門分野)

主な経歴・業績 1976年北九州市立大学外国語学部中国学科卒業。同年医薬品総合商社入社後貿易従事。1970年代後半より約10年間に渡る北京駐在業務及び中国国内行政、数多くの企業・研究機関との貿易と実務を展開。1997年株式会社エーベック貿易設立。2000年中国杭州に合弁企業・工場設立。43年間数多くの最先端医療技術供与に係る病院・医療業界・食品業界、鉱工業業界、農業関連業界等の中国経済近代化全般に渡る経済貢献を行いつつ、中国以外のオーストラリア、ニュージーランド、インド、ミャンマー、フランス等各国との貿易経済取引に従事。現在に至る。

専任教員 特任教員 専門職大学院に関し必要な事項について定める件(平成15年文部科学省告示第53号)第2条第2項の規定により、実務家教員のうち専任教員以外の者であっても、専任教員とみなされる者

学内兼任教員

畔津 憲司 北九州市立大学 経済学部 准教授

アダム・ヘイルズ 北九州市立大学 外国語学部 教授

市原 勇一 北九州市立大学 経済学部 准教授

牛房 義明 北九州市立大学 経済学部 教授

齋藤 朗宏 北九州市立大学 経済学部 准教授

寺田真一郎 北九州市立大学 外国語学部 教授

ロジャー・ウィリアムソン 北九州市立大学 外国語学部 教授

非常勤講師

池田 浩 九州大学大学院 人間環境学研究院 准教授

上田 幸恵 北九州市立医療センター 副看護部長
北九州市立看護専門学校 非常勤講師

緒方 光 久留米工業大学 工学部 教授

鹿毛 浩之 (公財)地球環境戦略研究機関
北九州アーバンセンター 所長

遠山 昌子 一般社団法人生き方のデザイン研究所
代表理事

永田 晃也 九州大学大学院 経済学研究院 教授

彭 立君 SVICコンサルティング代表



特任教授
八木田 一世

Issei Yagita
アントレプレナーシップ

現職
マーケティングデザインスタジオ
SEE'C 代表

専門分野 デザイン思考/アート思考、マーケティング、
ブランディング

主な経歴・業績 高校卒業後1996年に渡米。2000年コンコーディア大学ポートランド校卒業(Sales and Marketing)。2002年に帰国後、20代で起業。マーケティングを主体としたサイエンス的なアプローチと、コミュニケーションデザインを主体としたアートのなアプローチの両方で企業コンサルティング、商品開発、まちづくり、創業支援などに携わる。2018年、2019年に福岡デザインアワード受賞。SCBイノベーションアカデミー講師。九州アートディレクターズクラブ ファシリテーター。



特任教授
柳瀬 隆志

Takashi Yanase
マーケティング戦略

現職
嘉穂無線ホールディングス株式会社
代表取締役社長

専門分野 マーケティング、データ分析、小売業、国際貿易

主な経歴・業績 東京大学経済学部卒業後、2000年三井物産株式会社に入社。同社食料本部にて冷凍食品の輸入業務に携わる。2008年嘉穂無線株式会社入社。営業本部長・副社長を経て、2016年6月嘉穂無線ホールディングス株式会社、及び株式会社グッデイ社長就任。2017年4月からは、グループ会社の株式会社カホエンタープライズにて、クラウド活用やデータ分析を行う事業にも取り組んでいる。

目的・入学者受入れ方針

[AP:アドミッションポリシー]

■教育目的

営利組織及び非営利組織が活動する各領域で、革新的な事業創造・組織変革を推進するために幅広い専門知識を吸収し、総合的な課題解決能力を養い、高い倫理観とグローバル的視野を持った、地域をリードする高度専門職業人の養成

■入学者受入れ方針

マネジメント研究科マネジメント専攻では、以下のような人を求めています。

- 学問体系に裏付けられた実践的なマネジメントを学び、地域、社会での実践を目指す高い意欲を持つ人
- マネジメントに関する実践的な問題意識をもって、ディスカッションに参画できる経験と見識を持つ人
- グローバル社会に通用する思考力、判断力、コミュニケーション力を持つことを希求する人

知識・技能

- マネジメントを学ぶために必要な基礎学力や幅広い教養、リーダーとしての経験を有している。
- 論文の執筆やディスカッションに必要な日本語能力を有している。

思考力・判断力・表現力等の能力

- マネジメントに関する諸問題について論理的に思考し、判断するための素養を持っている。
- マネジメントに関連する文章を読んで理解したり、自分の考えをまとめて他者に伝えたりするための言語読解能力・表現能力を身につけている。

主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

- 異文化や異分野の人々との協働の中で自ら主体的に参画し、多様性を受け入れながら課題解決や価値創造を行う姿勢を有している。
- 経営や地域、社会における課題に対して高い意識を持ち、積極的に関わろうとする意欲を持っている。

教育課程編成・実施方針

[CP:カリキュラム・ポリシー]

マネジメント研究科は、ビジネス分野だけでなくパブリック分野においても革新的な事業創造や組織変革等を担える専門職業人を養成することを目的としており、これに対応する教育課程を編成し、実施していく。

- 教育課程はベーシック科目(基礎科目)、アドバンスト科目(基本科目)、エグゼクティブ科目(専門・応用科目)、プロジェクト研究科目(実践科目)の4つの科目区分で構成する。
- 科目構成は、積み上げ方式によるステップアッププログラムである。すなわち、上記4科目区分を段階的・スパイラル的に履修する教育システムを採用する。

■修了・進級要件

科目区分による修了要件は、2年以上在学することかつ、ベーシック科目10単位、アドバンスト科目14単位以上、エグゼクティブ科目12単位以上、プロジェクト研究科目8単位の合計44単位以上の修得を必要とする。進級要件は、1年次においてベーシック科目8単位以上、アドバンスト科目6単位以上、プロジェクト研究科目4単位の合計18単位以上の修得を必要とする。

■ベーシック科目(基礎科目)

「ベーシック科目」は、ビジネスとパブリックの双方の分野で必要なマネジメント能力育成のための科目を1年次に配置する。この段階でマネジメントの基礎的思考と会計・財務の基礎知識を学ぶ。

■アドバンスト科目(基本科目)

「アドバンスト科目」は、ビジネスとパブリックにそれぞれ特有の課題に関する基本的な科目を1年次を中心に配置する。この段階では専門・応用分野への足掛かりとするために、各自の問題意識の醸成を目指す。

■エグゼクティブ科目(専門・応用科目)

「エグゼクティブ科目」は、各自の課題・関心に応じた専門・応用科目として2年次中心に配置する。現場に精通した教員の下で、仕事において実践的に活用できる知識やノウハウの習得を目指す。ビジネス系、パブリック系を横断する科目群として、中華・国際ビジネス系とソーシャルビジネス系の科目群を設ける。これらの科目は北九州地域が歴史的に培ってきた独自の知的財産、強みなどを教育に活かすことを目的としている。

■プロジェクト研究科目(実践科目)

「プロジェクト研究科目」は、これまでの履修で蓄積してきた知識や問題意識をベースに、演習形式で徹底した討議を通じて「気づき、考え、提案・実践する」というプロセスを遂行し、実践的課題解決能力を育成する。

- 1) 「MBAオリエンテーション」と「グループ・プロジェクト」は、コミュニケーション能力を養成し、研究方法を習得するため、1年次の必修科目とする。
- 2) 「プロジェクト研究I・II」は、2年間にわたる学習の最終的な成果物として研究レポートまたは論文を完成させる演習科目であるため、2年次に必修科目とする。

学位授与方針

[DP:ディプロマ・ポリシー]

■ 高度な専門的知識・技能

- マネジメント理論に関する専門知識を修得している。それらの専門知識に基づいて、組織や地域、社会が直面する問題や課題について、十分な議論を行うことができる。

【理論知識】

- ビジネスやパブリックのマネジメントに関する実践的な知識を修得するとともに、それらを活用してグローバル化や多様な社会問題に対応するための専門知識を身につけている。【実践知識】

- マネジメントに関する定性的、定量的な分析能力、課題に対する観察能力や解決能力といった技能を修得している。

【分析解決技能】

- 職業人に不可欠な問題処理、財務や会計、語学能力といった実践的な技能を身につけている。【実務技能】

- 新たなニーズの探索、それを事業に結び付ける構想、連携やネットワークづくりといった新規事業に必要な技能を身につけている。【新規事業技能】

■ 高い問題解決能力と表現力

- マネジメントに関する問題や課題を抽出し、その本質的な特徴を捉え、それらに対する解決策を導き出し、的確に表現できる。【思考・判断・表現力】

■ 高い倫理観に基づいた自律的行動力

- 地域、社会に貢献するとともに、市民としての責任感と倫理観を身につけている。【倫理観】

- 企業経営や公共経営等に関する課題に高い見識を持ち、常に挑戦する姿勢や変革する力を持っている。【経営変革態度】

- リーダーとして主体的に行動を起こし、地域の課題に積極的に取り組むことができる。【地域リーダー態度】

- 東アジア等の諸外国に対して関心や理解を持ち続け、国際社会の中で競争力を維持・強化するだけでなく協調的な態度がとれる。【国際協調態度】



2021年3月学位授与式

入試説明会日程

秋 期	2021年 8 月25日ⓧ 19:00~20:30
	2021年 8 月28日ⓧ 13:30~15:00
冬 期	2021年11月26日ⓧ 19:00~20:30
	2021年11月27日ⓧ 13:30~15:00

オープンキャンパス

K²BSでは、実際に開講されている講義を見学できるオープンキャンパス(授業見学会)を実施しています。実施時期および科目は確定次第、K²BSのホームページでお知らせいたします。(無料:事前申込みが必要)

2022年度 入試概要

大学を卒業し、企業・官公庁等で満2年以上の実務経験を有する社会人を中心に30名募集します。
ただし、進学者についても若干名募集します。

選考方法	社会人	出願書類をもとにした書類審査(1次選考)と、面接試験(2次選考)
	進学者	出願書類をもとにした書類審査(1次選考)と、面接試験・筆記試験(2次選考)

大学卒業以外の方は出願前に入学資格審査を行います。詳しくは学生募集要項でご確認ください。
なお、学生募集要項の入手方法は以下のとおりです。

■ サイトからのダウンロードによる入手

北九州市立大学ビジネススクールホームページよりダウンロードしてください。

URL <http://k2bs.kitakyu-u.ac.jp/>



■ 郵送による入手

宛名を記入した返信用封筒(角形2号:A4サイズ、250円切手貼付)を同封し、請求する封筒の表に「マネジメント研究科 募集要項請求」と朱書きして、下記までお送り下さい。

送り先

〒802-8577
北九州市小倉南区北方四丁目2番1号
北九州市立大学 学術振興課教務第三係
マネジメント研究科担当



入学金・授業料・支援制度

■入学金・授業料

入学金と授業料の額は右図の通りです。

		金額
入学金	市内居住者	282,000円
	上記以外居住者	423,000円
授業料 (年間)	第1期(4~9月)	267,900円
	第2期(10~3月)	267,900円

(注1) 現行の金額です。変更となる場合があります。

(注2) 市内居住者とは

(1) 本人、配偶者、2親等以内の親族が市民税納税者(または市民税非課税者)であり、かつ入学金納入の時まで引き続き北九州市内に住所を有する者。

(2) 北九州市内の事業所などに勤務または北九州市内に本店などを置く事業所に勤務する者

■奨学金

人物、学業がともに優秀かつ健康であって、経済的理由のため修学が困難であると認められる者に対しては、選考の上、日本学生支援機構(旧・日本育英会)の奨学金が貸与される制度があります。

■北九州市立大学大学院マネジメント研究科 特待奨学生制度(2022年度)

対象者

大学院マネジメント研究科選考選抜における「選抜区分 ②大学などからの進学者」において入学を許可された者のうち、学業成績が特に優れ、かつ人物優秀であると認められる者。但し、本研究科入学の年(2022年)の3月に本学学部等(外国語学部、経済学部、文学部、法学部、地域創生学群及び国際環境工学部)を卒業した者に限る。

特待奨学生に関する申請は必要ありません。

大学側で該当する対象者を選考審査した上で、特別奨学生として認定された者に対して、**2022年4月中**に文書でお知らせします。

■教育訓練給付制度

K²BSは、専門実践教育訓練制度の指定講座です。北九州市立大学大学院マネジメント研究科への入学者で、一定の条件を満たす、雇用保険の一般被保険者(在職者)または一般被保険者であった方(離職者)のうち、①2年間で修了予定の方(長期履修希望者は対象外) ②「専門実践教育訓練給付金」の受給資格を有している方、で所定の条件を満たす形で修了した場合、支払った入学金・授業料の一定の割合額がハローワークから支給されます。

専門実践教育給付金の支給を希望する方は、**受講開始1か月前までに、本人の住所を管轄するハローワークに申請手続きが必要です。**

詳しくは、本人の住所を管轄するハローワークにご確認ください。

専門実践教育訓練での「教育訓練給付金制度」とは

厚生労働省・都道府県労働局・ハローワークHPより抜粋

働く人の主体的で、中長期的なキャリア形成を支援し、雇用の安定と再就職の促進を図ることを目的とする雇用保険の給付制度です。

■対象となる教育訓練経費 (2021年4月現在)市内居住者の場合

	1学期	2学期
入学金	282,000円	
授業料(1年次)	267,900円	267,900円
授業料(2年次)	267,900円	267,900円

■教育訓練経費に対する国からの支給額

	受講中(注1)	修了後(注1)(注2)
支給額	50%	50%と追加で20% =70%

(注1) 各期において一定の単位修得が条件となります。受講中とみなされなかった期間以降は給付金が支給されません。また、支給額には上限がございますので、ご確認ください。

(注2) 修了時点で一般被保険者として雇用されている場合、及び修了後1年以内に一般被保険者として雇用された場合。

長期履修制度

職業を有している等の理由によって、標準修業年限である2年間で修了が困難である場合、最長4年間で計画的に教育課程を履修し、修了することができる制度です。

授業料は、2年間分の授業料総額を、長期履修が認められた年数(3年または4年)の間、分割して納入することになります。

長期履修学生制度を利用して修学する場合は、申請の手続きが必要です。

■授業料の例

	標準修業年限 2年の場合	長期履修 3年の場合	長期履修 4年の場合
金額	1年目 535,800円	1年目 357,200円	1年目 267,900円
		2年目 357,200円	2年目 267,900円
	2年目 535,800円	3年目 357,200円	3年目 267,900円 4年目 267,900円
総額	1,071,600円		

※現行の授業料による例です。

※長期履修期間中に授業料が改定された場合には、改定後の額で再計算されます。

2022年入試日程

	秋期日程	冬期日程
出願期間	2021年 9月24日(金)～10月 1日(金)	2022年 1月 4日(火)～13日(水)
1次選考結果通知	2021年10月18日(月)	2022年 1月28日(金)
2次選考試験日	2021年10月31日(日)	2022年 2月11日(祝・金)
合格発表日	2021年11月 5日(金)	2022年 2月15日(火)
入学手続	2022年 3月 9日(水)～15日(火)	



小倉サテライト キャンパス

アミュプラザ小倉7F

小倉駅直結のアミュプラザ小倉7Fを使用し、平日夜間の授業を実施しています。MBA関係の図書・学生用パソコン・自習スペース・ミーティングスペース・コピー機などを完備し、快適な学習環境を提供しています。



北方キャンパス

モノレール競馬場前(北九州市立大学前)駅より 徒歩約3分

土曜日の講義を行っています。本館8Fには、マネジメント研究科資料室を設置しており、教員・学生の集い・交流・学習の場として、MBA関係の図書・学生用パソコン・自習スペース・ミーティングスペース・コピー機等を完備しています。



北九州市立大学ビジネススクール

公立大学法人 北九州市立大学大学院
マネジメント研究科(専門職大学院)

〒802-8577 北九州市小倉南区北方4丁目2番1号

お問い合わせ先	TEL	093-964-4208
	FAX	093-964-4176
	E-mail	k2bs@kitakyu-u.ac.jp

窓口 営業時間	月曜日～金曜日	8:30～17:15
	土曜日	8:30～12:15

<http://k2bs.kitakyu-u.ac.jp>

K2BS

検索

